

E

平成30年度 数 学 簿 記

問 題 冊 子

注 意 事 項

1. 監督者の指示があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 問題冊子は、4 ページに組んである。
なお、落丁、乱丁及び印刷不鮮明なものがあればすぐに申し出ること。
3. 解答用紙に必ず本学の受験番号を記入すること。各解答用紙に受験番号欄が2箇所ある。
4. 解答は、解答用紙の指定された解答欄に記入すること。指定された解答欄以外に記入されたものは採点されない。
なお、赤で記入するべき箇所も黒で記入してよい。
5. 記入した解答用紙は、裏返して机上に置くこと。
6. 解答用紙の※の欄は記入しないこと。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

- 1 簿記上の取引について，他の取引と区別しながら，説明しなさい。

2 次の取引を推定しなさい。(単位：円)

① (借方)	買 掛 金	10,000	(貸方)	仕 入	10,000
② (借方)	売 上	5,000	(貸方)	売 掛 金	5,000
③ (借方)	所得税預り金	30,000	(貸方)	現 金	30,000
④ (借方)	手形貸付金	200,000	(貸方)	現 金	200,000

- 3** 次の資料に基づいて、(1)先入先出法と、(2)移動平均法により、商品有高帳を記入し、売上総利益を算定しなさい。前月繰越高は解答用紙に記入済みである。なお、商品有高帳は締め切らなくてよい。

< 資料 >

2月9日	仕	入	商品 X	70 個	@ 520 円
2月14日	売	上	商品 X	80 個	@ 700 円
2月19日	仕	入	商品 X	50 個	@ 380 円
2月25日	売	上	商品 X	75 個	@ 720 円

...
...
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

- 4** 次の期末整理事項によって解答用紙の精算表を完成しなさい。会計期間は×1年4月1日から×2年3月31日までの1年である。

＜決算整理事項＞

1. 所有する有価証券について配当金領収書 ¥ 2,500 を受け取っていたが、その処理がされていなかった。
2. 受取手形および売掛金の期末残高に対して3%の貸倒れを見積もる。貸倒引当金の設定は差額補充法による。
3. 期末商品の棚卸高は、¥ 30,000 である。売上原価は「仕入」の行で計算すること。
4. 備品および建物について、定額法で減価償却を行う。
備品 耐用年数5年 残存価額：取得原価の10%
建物 耐用年数30年 残存価額：取得原価の10%
5. 消耗品の期末未費消残高は ¥ 3,500 である。
6. 得意先埼玉商店が倒産し、前期の同店に対する売掛金 ¥ 6,000 が回収不能となったため、貸倒れとして処理する。
7. 貸付金は×1年10月1日に得意先に対して貸付期間1年、年利率6%で貸し付けたもので、利息は元金とともに返済期日に受け取ることになっている。当期分の利息は月割計算による。
8. 借入金は×2年1月1日に仕入先から借入期間1年、年利率4%で借り入れたもので、利息は元金とともに返済期日に支払うことになっている。当期分の利息は月割計算による。
9. 受取家賃は、×1年9月1日に、所有する建物の一部を賃貸する契約を結び、その際、向こう1年分の家賃を受け取ったものである。
10. 保険料は×1年8月1日に、向こう1年分を支払ったものである。

